

茶病害虫防除情報

令和8年1月15日

【第1号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

令和8年度地区茶栽培暦（防除暦）について

県内各地区において令和8年度の茶栽培暦策定検討会が行われました。本年の改定では今年の病害虫の発生や防除上の問題が比較的少なく、新規登録農薬や輸出茶の残留基準設定追加・変更も少なかったことなどから大きな改定はありませんでした。今回は、令和7年度の病害虫発生状況と県内全地区の改定された栽培暦の概要などについて解説します。

1 令和7年度の病害虫の発生状況

○ 炭疽病

二番茶期の発生は平年並み～やや少なく、三番茶期の発生は平年より多く、秋芽生育期の発生は平年並み～やや少なかった。

○ 輪斑病（新梢枯死症）

5月の発生は平年よりやや少なく6月はやや多かった。秋芽生育期の新梢枯死症の発生は平年並み～やや少なかった。

○ 網もち病

発生は平年よりやや少なかった。

○ チャノコカクモンハマキ チャハマキ

春先において両種とも発生が平年より多かったが、その後減少した。主に二番茶期に被害が多く見られ、その後発生は平年並み～やや少なくなった。

○ チャノホソガ

5月以降の発生は平年より多く推移した。現地茶園における三角葉巻被害も二番茶以降に平年より多く発生した。

○ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ

ヨコバイの発生は5月以降平年より多く推移した。一方、アザミウマの発生は8月にやや多かつたが4月以降平年並み～やや少なかった。

○ クワシロカイガラムシ

本年の発生は平年よりやや少なかった。

○ カンザワハダニ

一番茶生育期の発生は平年並みであった。三番茶期以降、やや多かったが9月以降少なくなった。

○ マダラカサハラハムシ

本年の発生は平年より少なかった。

○ チャトグコナジラミ

本年の発生は一番茶期から多かったが、その後減少した。

○ ツマグロアオカスミカメ

本年の発生は二番茶まで多かったが、その後、平年並みで推移した。

2 令和7年新規登録農薬、登録内容変更について

殺菌剤 テブロスフロアブル 炭疽病 (1000倍)

ニマイバー水和剤 もち病 (1000倍)

殺虫剤 アプロートフロアブル クワシカイガラムシの若齢幼虫 (1000倍)

サムコルフロアブル10 ハスモンヨトウ (2000~4000倍)、削除:ハスモンヨトウ (4000倍)

テッパン乳剤 ナガチャコガネ成虫 (1000倍)

テロン、D-D、DC油剤 ネコブセンチュウ

バシレックス水和剤 ヨモギエダシヤクはシャクトリムシ類に変更

ヨーハルフロアブル ナガチャコガネはナガチャコガネ成虫に変更

3 輸出相手国（日本 USA EU 台湾等）の農薬残留基準値(MRL)の新規設定状況 (ppm)

殺菌剤 ベルクト水和剤 EU 0.01 → 0.05

殺虫剤 グレージア乳剤 台湾 不検出 → 5

マイコトーネロアブル EU 0.1 → 0.05

除虫菊乳剤3 USA 不検出 → 1

令和8年度米国輸出茶対応栽培暦 (南薩 日置 姶良伊佐 北薩 肝属 熊毛地区)

月 旬	茶芽生育過程 (発生時期)	病害虫名	基幹防除	補完防除
			薬剤 希釀倍数 (倍)	薬剤 希釀倍数 (倍)
2月 上 中下	初発生確認時 越冬期	(赤焼病発生確認直後) (クワシロカイガラムシ)		カスミンボルトー (南) フルートMC
3月 上 下	越冬後 一番茶前	ハダニ サビダニ カムシ アラムシ (ハダニ多発時) (コカクモンハマキ チヤハマキ)	タニケッターフロアブル (南日始北肝) コルト顆粒水和剤 (南)	タニケッターフロアブル (熊) コルト顆粒水和剤 (熊肝) タニサラバフロアブル (南日肝) ハマキコンN (日北)
4月				
5月 上 中 下	幼虫ふ化最盛期 若齢幼虫期 (若齢幼虫期)	クワシロカイガラムシ (チャトケナジラミ) (コカクモンハマキ チヤハマキ)	アプロードエースF (南日)	アプロードエースF (南日肝熊) アプロードエースF (日熊)
	二番茶萌芽-1葉期	ウンカ スリップス ホリガ (炭疽病)	ウララ DF + ティアナSC (南北肝) or フルコンフロアブル (日熊)	ハマキコンN (南熊)
				クプロシールド (南始北肝) or ムッシュボルトー (日熊)
6月 下	三番茶萌芽-1葉期	(輪斑病) ウンカ スリップス ホリガ (炭疽病)	アグリメック (南日肝) or エクシル SE (熊) or テッパン液剤 (始北)	アミスター20 フロアブル (北) クプロシールド (南北) or ムッシュボルトー (日熊)
7月 下	最終摘採直後	(輪斑病) ハダニ類	カスミンボルトー (北)	カスミンボルトー (南日肝熊) タニサラバフロアブル (日北)
8月 上中 下	秋芽萌芽-1葉期 秋芽3-4葉期	炭疽病 新梢枯死症 ウンカ スリップス ハマキ類 ホリガ マダラ チヤトケ 炭疽病 網もち病 ウンカ スリップス ハダニ チヤトケ マダラ	フロンサイド SC + グレーシア乳剤 (南日北肝熊) コテツフロアブル (始) インダーフロアブル + コテツフロアブル (南日北肝熊) or アグリメック (始)	
9月 上 中	3-4葉期 7日後 若齢幼虫発生期	(網もち病) ハマキムシ類 ホリガ シャクトリ スリップス		ムッシュボルトー (南始肝) or クプロシールド (日北) フルコンフロアブル (北) or ティアナSC (始熊) or アファーム乳剤 (肝)
10-11月	秋整枝後	(チャトケ コナジラミ)		アプロードエースF

令和8年度一般園茶栽培暦 (姶良・曾於 地区)

月 旬	茶生育過程 (発生時期)	病害虫名	基幹防除	補完防除
			薬剤 希釀倍数 (倍)	薬剤 希釀倍数 (倍)
1月				
2月				
3月上中 下	越冬後 萌芽前	ハダニ のみ ハダニ・サビハダニ混発園 (ハマキムシ類)	ハロックフロアブル (始曾) タニケツターフロアブル (始曾)	ハマキコン N (始)
4月 上	萌芽～1葉期	(ハダニ多発時)		タニサラバフロアブル (始)
5月 上 上中 下	第1世代若齧幼虫期 第1世代ふ化最盛期 第1世代幼虫期発生期 二番茶萌芽～1葉期	チャトケコナジラミ クワシロカイカラムシ 炭疽病 もち病 黒葉腐病 ウンカ スリップス ホソガ	アプロートエースF (始) アプロートエースF (始) タニコニール 1000 (始) タニコニール 1000 (始) ウララ DF (始曾) テイアナ SC (曾)	アプロートエースF (曾) タニコニール 1000 (曾) タニコニール 1000 (曾) フカンコルフロアブル (始)
6月	二番茶摘採後			
7月 上	三番茶萌芽～1葉期	ウンカ スリップス ホソガ ハマキ 炭疽病	テッパン液剤 (始) エクシレル SE (曾)	
8月 上 中 下	最終摘採・整枝後 (直後～3日後) 秋芽萌芽～1葉期	輪斑病 ウンカ スリップス チャトケ ハダニ 炭疽病 網もち病 もち病 新梢枯死症	カスミンボルトナー (始) コテツフロアブル (始曾) タニコニール 1000 (始曾)	
9月 上 中	秋芽 3～4葉期 秋芽 4～5葉期	炭疽病 網もち病 もち病 新梢枯死症 ウンカ スリップス チャトケ (網もち病常発園) (ハマキ ホソガ シャクトリ)	インターフロアブル (始曾) アグリメック (始曾)	ムッシュボルトナー (始) フジトーレL フロアブル (曾) テイアナ SC (始) ファルコンフロアブル (曾)
10～11月	秋整枝後			

注 1 南…南薩 日…日置 北…北薩 姶…姶良 曾…曾於 肝…肝属 熊…熊毛 なし…全地区